「お気に入り」から始めよう。

～初詣・冬芽・冬鳥・初笑い～

相生山の四季を歩く会 #171
2024.1.14

初歩きタイムテーブル

①相生口　9:45 発
②シンボルコナラ
③山根口　10:00
④双子池口　10:20
⑤菅田神社　10:50
⑥菅田口　11:00
⑦周回道路
　展望地　11:30
⑧展望台跡　11:40
⑨コナラの広場　11:50 着

ちゃんと帰って来れるよう
ご協力くださいね。

森の大切さ、楽しさ

北岡明彦

この地域の原生林は、ほとんどシイーカシ林で一年中薄暗く、身近な森としては、快適といえない面もあります。ですから、快適性を求めて、森の手入れをすることが全て間違いということはありません。私たち人間の都合で、あくまで。

それにより、維持できる動植物もたくさんいます。でも、人間が手入れしなければ絶滅する種類が多いというのは間違いです。何といっても、全ての動植物が、私達人類より歴史が古いのですから。

こうした自然と人間の関係をじっくり考えてみることは、とっても大切なことです。①まずは、自然の素晴らしさを心から楽しみ、②次に、どのようにして目の前の自然が成り立っているかを考え、③最後に、私たちがこれからどのように自然とつきあえば良いかを、じっくり考えてみることが大切だと思います。

ラブリーアース ホームページ「森のひとり言」#114 より一部抜粋

連　絡　先（古川）
tell/fax：052-821-6463
ｹｲﾀｲ：080-5124-6463
e-mail：viva_forest@yahoo.co.jp
https://lovelyearth.info/
検索：相生山の四季を歩く会
ブログ：相生山からのメッセージ

マガモ

お気に入りを見つけよう！
お気に入りだけ覚えよう！！

ユズリハ

ヒメユズリハ

今年になってから　出会った野鳥たち

No	標準和名	漢字表記	科名	区分	♀♂	ワンポイントmemo
1	マガモ	真鴨	ｶﾓ	水・冬	♂頭：緑 ♀褐色	越冬地でつがいになる、アヒルの原種
2	カルガモ	軽鴨	ｶﾓ	水・留	同色	地味な褐色
3	キジバト	雉鳩	ﾊﾄ	留	同色	直線飛行　比較：ドバト
4	カワウ	川鵜	ｳ	水・留	同色	潜水、水中泳ぐ、群れでV字編隊
5	オオバン	大鵯	ｸｲﾅ	水・留	同色	額・嘴：白色
6	コゲラ	小啄木鳥	ｷﾂﾂｷ	留	♂後頭部赤斑	ドラミング、カラ混群に交ざる
7	ハシボソガラス	嘴細烏	ｶﾗｽ	留	同色	ｶﾞｰｶﾞｰ鳴く、頭の平らな田んぼの烏
8	シジュウカラ	四十雀	ｼｼﾞｭｳｶﾗ	留	♂喉からの黒線が太い	囀り：ツピツピツピ
9	ヒヨドリ	鵯	ﾋﾖﾄﾞﾘ	留	同色	鳴き声：ヒーヨ→鳴き真似多様、雑食「日本の森はヒヨドリが作った」
10	メジロ	目白	ﾒｼﾞﾛ	留	同色	眼の周りが白い、ウグイス色、素早くにぎやか、群れをつくる
11	キセキレイ	黄鶺鴒	ｾｷﾚｲ	漂・水辺	同色	尻尾上下に振る、腹：黄色

カワウ

キセキレイ

リョウブ

下見で気づいた　お正月っぽい樹木たち

No	標準和名	漢字表記	科名	樹形	特徴	ワンポイントmemo
1	クスノキ	樟	ｸｽﾉｷ	高木	全縁	クスノキ科の匂い、3行脈
2	ムラサキシキブ	紫式部	ｼｿ	低木	対生・裸芽	
3	マンリョウ	万両	ｻｸﾗｿｳ	小低木		縁起木
4	サカキ	榊	ｻｶｷ	高木	全縁	芽の先が鉤状に曲がる
5	ヒサカキ	姫榊	ｻｶｷ	低木	♀♂異株	
6	ヒイラギ	柊	ﾓｸｾｲ	低木	♀♂異株	
7	シイノキ	椎の木	ﾌﾞﾅ	高木	雌雄異花 全縁	葉裏に金属光沢
8	ヒメユズリハ	姫杠,姫楪	ﾕｽﾞﾘﾊ	亜高木	♀♂異株 全縁	葉裏に脈状網→緑
9	カナメモチ	要黐	ﾊﾞﾗ	亜高木		硬く鋭い鋸歯、革質
10	タブノキ	椨の木	ｸｽﾉｷ	高木	全縁	赤くふくらむ冬芽
11	アラカシ	粗樫	ﾌﾞﾅ	高木	雌雄異花	頂生側芽
12	ウスノキ	臼の木	ﾂﾂｼﾞ	低木		超人気の冬姿
13	モチノキ	黐の木	ﾓﾁﾉｷ	亜高木	♀♂異株 全縁	不味い果実
14	クロガネモチ	黒鉄黐	ﾓﾁﾉｷ	亜高木	♀♂異株 全縁	葉柄黒紫
15	ソヨゴ	冬青	ﾓﾁﾉｷ	亜高木	♀♂異株 全縁	福良木
16	ユズリハ	杠,楪	ﾕｽﾞﾘﾊ	亜高木	♀♂異株 全縁	譲り葉、側脈深い→粉白、弓弦葉
17	ヤブコウジ	藪柑子	ｻｸﾗｿｳ	小低木		縁起木「十両」
18	リョウブ	令法	ﾘｮｳﾌﾞ	低木		芽鱗は陣笠

フローラ（植物相）
水平分布と垂直分布

日本の植生分布

日本列島は、北海道から沖縄まで北から南に約3,000kmと弓状に長く、海岸から高山まで様々な立地を有し、それぞれの地域に応じた多様な生物相が形成されている。植物については、シダ植物以上の高等植物だけでも約6,000種以上といわれ、立地に応じた植生（植物群落）が形成されている。植物の分布は、基本的には気温と降水量に対応しており、3,000mを越える山脈を有する日本列島では、緯度に伴う水平的分布と標高による垂直的分布による植生の分布パターンがみられる。

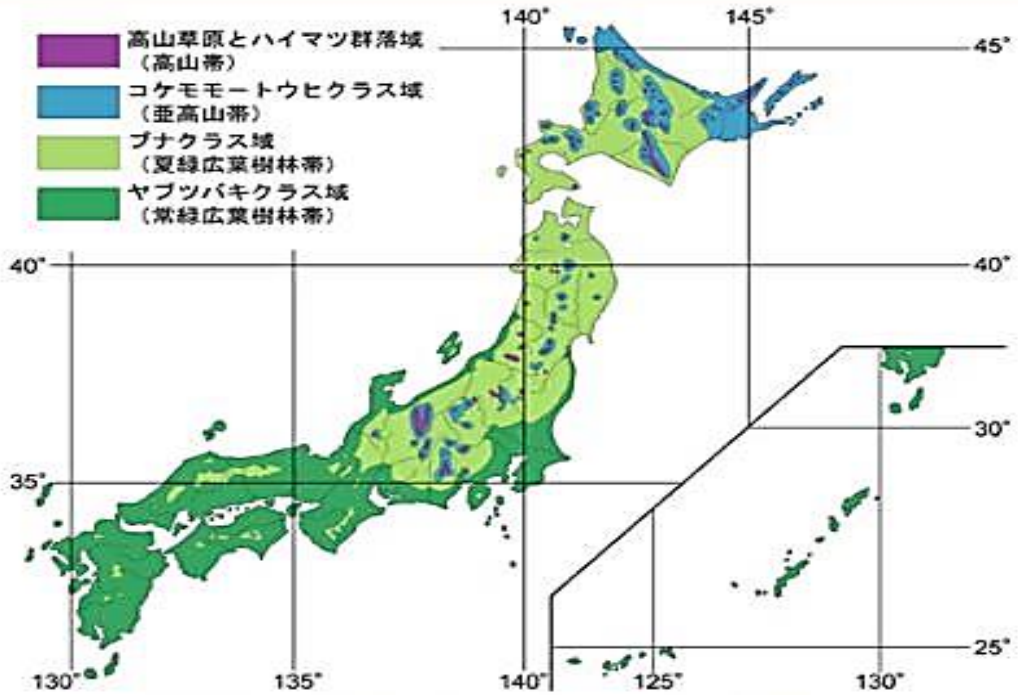
今回の資料の3面は、環境省自然環境局「生物多様性センター」https://www.biodic.go.jp/植生調査ページより引用、作成しました。

私たちは身の回りの事物を固定したものとして見がちです。また、不確かなものより確実なもの、不安定なものより固定したもののほうを求めたがる傾向があります。

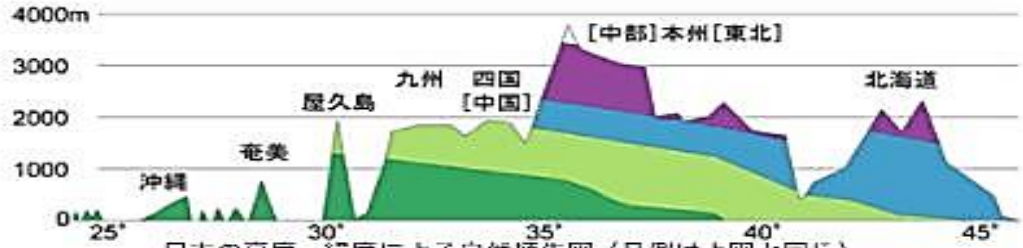
けれどもどうでしょう。自然界に身を置いて、自然の現象を見つめることに慣れてくると、実は安定したものは部分的一時的で、大かたは変化の最中にあり、それが当り前だという事に気づくでしょう。

自然の基本である植生も、私たちが今見ているものは一部分でしかなく、変化中であり、「ところ変われば」「時が移れば」・・・もしかすると「全く違うもの」が見えてきたりいたします。

「植物相」難しそうですが、旅に出たり、山へ登ったりすると実感できます。豊かな眼を育てていきたいものですね。



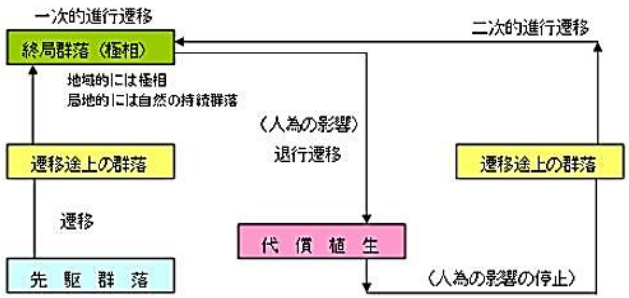
（出典：「日本の植生、宮脇昭　編、昭和52年」を改変）



日本の高度・緯度による自然植生図（凡例は上図と同じ）
（出典：「日本の植生、宮脇昭　編、昭和52年」を改変）

植生（群落）の動態

自然植生と代償植生

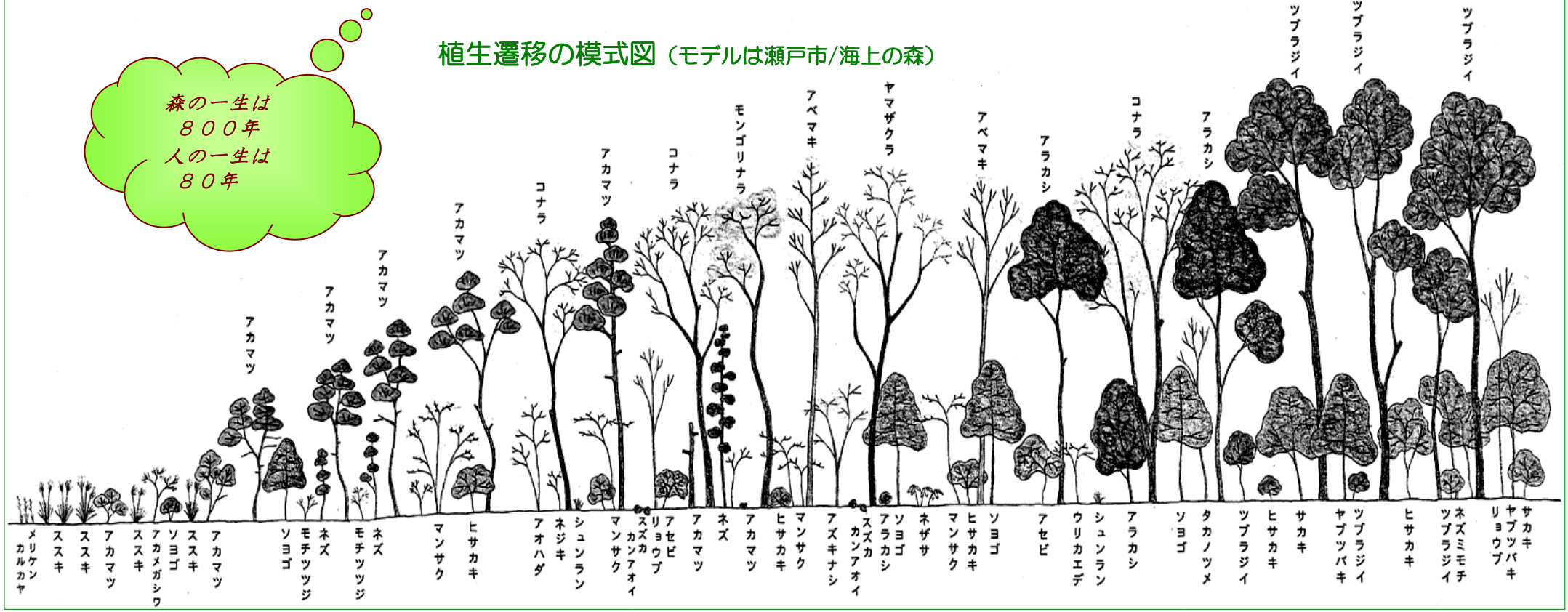


（出典：日本の植生，宮脇昭編，昭和52年）

自然の森は動いている

森の一生は
８００年
人の一生は
８０年

植生遷移の模式図（モデルは瀬戸市/海上の森）



ススキの草原 **草本植物** → アカマツが侵入 **樹木** → アカマツの林 **針葉樹の陽樹林** → 少しずつコナラやアベマキが混じる **落葉広葉樹** → コナラとアベマキの林 **落葉広葉樹の二次林** → 少しずつシイやカシが混じる **常緑広葉樹** → ツブラジイの林 **常緑広葉樹の極相林**

裸地から**アカマツ林**まで・・・２０～５０年くらいかかる

裸地から**コナラ・アベマキ林**まで・・・８０～１００年くらいかかる

裸地から**シイ林**まで・・・２００～３００年くらいかかる

①森林が完全に**裸地**化されると、まず風散布型種子の**草本植物**が侵入する。

②その中に、アカマツ・アカメガシワやモンゴリナラなどの**先駆植物的性格の樹木**が侵入し、やがて**アカマツ林**を形成する。
③アカマツ林となって土壌が安定すると、コナラ・アベマキやヤマザクラなどの肥料分を好む樹木が侵入し、混交林となる。

④日陰に弱いアカマツは徐々に衰退し、やがて、**コナラ－アベマキ林**となる。
その頃には、日陰に耐えられるアラカシ・シラカシなどとツブラジイの実生苗が侵入する。
⑤**常緑性ブナ科樹木**と**夏緑性ブナ科樹木**の混交林となり、やがて、より日陰に強い常緑樹林に替わり、**極相林**に達する。
この地域の極相林では、一般的にツブラジイが森の中心を占め、周辺にカシ類が生育する事例が多く見られる。

とよた森林学校講座資料、「日本どんぐり大図鑑」（北岡明彦監修）などを参考に作成